



2008年3月分社内報

VOL. 9

拝啓 早春の候、貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、いよいよ工程通りであれば来月の進水を迎えます。私達は現在まで、当社運営の為に、業界の様々な問題点を分析して参りました。問題点がある程度は認識しているにも関わらず、未だそれを解決するだけの能力も経験もない私共ではございますが、もう躊躇している段階ではなく、今後は建造計画を推進する中で模索し、進水そして竣工、就航に向けて邁進する所存でありますので、今後共暖かいご支援の段宜しくお願い申し上げます。

瀬戸内中央汽船株式会社 取締役一同

2月1日 国立清水海上技術短期大学校(海技教育機構)に訪問させて頂きました

主機陸上試運転の便を利用して、訪問させて頂きました。残念乍、今年度の卒業生の就職先は既に全員内定しておりました。従って、来年度の求人申し込みとなりますが、久保田校長様をはじめ、各教諭殿、企画部ご担当者殿と、今後の船内労働環境改善問題を含めた今後の船員育成の在り方について、意見交換をさせて頂くことができ、決して無駄な時間ではなかったと考えています。

各担当教諭殿も、協業化・グループ化が業界で提唱されている中、既にこのような会社が設立していることに関し、非常に興味を持たれているご様子で、今後も様々な情報交換をして頂けることを快諾して頂きました。思えば、このような地道な活動を私共が怠った結果が今日の船員不足の状況を招いたのかもしれない。勿論、経費や労力の問題もありますので、1社単位では困難なことではありますが……………

今後も可能な限りこのような活動を継続したいと考えております。

2月22日 中谷造船(株)において建造打合せを実施しました

今までの建造監督中の指摘事項の取り纏めと今後の対応、そして何よりも貨物油管の最終決定の為、大人数となりましたが、戸松参事様をはじめ関係者各位殿の集まって頂き、打合せを実施しました。かねてより懸案の貨物油管系統についても概ね確定することが出来ました。

その他の仕様についても、当初より戸松参事様の全面的なご指導の下建造計画を進行して参りましたので、大きな問題はありませんでしたが、役員が在籍する各社の工務監督、乗船経験者等の貴重な現場での意見をお聞きすることが出来ましたので、今後の艤装段階での手直しの参考とさせて頂きたいと存じます。ご参加頂いた各位様に対し厚く御礼申し上げます。

2月28.29日 上野トランステック(株)台場事務所にて No.613 建造プロジェクトチーム打合せを開催しました

既にご存知の通りのことと存じますが、昨年まで業務関係の支援をして頂いておりました業務グループの浜本マネージャーがご転勤となり、又、建造プロジェクトチームの責任者として新たに小山常務にご就任頂くこととなり、現在までの計画の再確認と今後計画の進行についての打合せを実施させて頂きました。建造資金面、技術打合せ等、綿密な打ち合わせをすることが出来、今後も継続して当チームにて御支援頂くこととなりました。

プロジェクトチームの方々におかれましては、2日間に渡りご指導頂き、誠に有難うございました。

No.613 建造プロジェクトチームメンバー

上野トランステック株式会社 小山常務様、戸松参事様、松瀬サブマネージャー様、橋本チームリーダー様、梶原チームリーダー様、新屋敷監督様 誠に有難うございました。

***** 内航海運協業化の課題に関するご意見募集について *****

内航海運業の協業化は、今日俄かに議論され始めた問題ではありません。それでは今日の状況になるまで、何故進展しなかったのか又、今後何が協業化にとって必要なかを模索していきたいと考えます。

多方面からいろいろな意見を頂戴することは、瀬戸内中央汽船としての今後の運営上の問題点を認識することでもあります。趣旨をご理解頂き、株主の皆様におかれましては、ご意見等、メール頂ければ幸いです。

info@setochu.com

もう一つの協業化、グループ化

私共の業界を振り返ってみますと、平成4~5年の大量建造時については、当時企業整理が著しかった漁船からの転換船員によって、船員不足という危機を乗り越え、その供給ソースが枯渇した段階で、何らかの対策が必要であることは提唱され続けていながら、業界全体の不況により、円滑に進展しませんでした。再び建造時期と大量定年者を迎えた今、各社が生き残る為に、今度は限られた数の内航船員を他社からの“引抜き”や“定年の先送り”という手段で乗り、自然淘汰される同業者を待っているだけなら、余りにも無策で、問題を更に大きくしているだけのように感じます。(勿論、背に腹は代えられないという現実問題ではありますが……………)

先の社内報においても紹介致させて頂きましたが、各機器の工場試運転等にて、メーカー側の現場担当者と意見交換をさせて頂く中で、やはり後継者不足はどの業界においても共通問題でありました。某メーカーの意見で最も印象に残ったのは、“私達が新たな技術開発によって機器を製造したとしても、その機器を使用する顧客の技術が低下しては、その機器が正当に評価されず、私達は必然的に淘汰されてしまう”という意見でした。又、技術員が修理依頼で顧客の船に訪船した際、“機関室のスペースが狭く、工具等も充実にないという環境で、日常メンテナンスを実施していることに驚いた。自分達は陸上工場で、それらの環境に恵まれているからこそ出来るのであって、とても真似できない”という現場技術員の所見に関し、“顧客が使用する環境を十分理解していないのに、本当に良い製品が開発できるのか?”という危惧を感じておられ、“今後、若いメーカー技術員等の顧客船舶への体験乗船等も必要なのではないか”という意見を頂戴しました。

内航船員の労働市場に対する供給ソースが枯渇、或いは極端に減少している訳ですから、もっと広く他業種にも目を向けて、前述のメーカーとの意見交換は単なる一例ではありますが、類似した問題を抱える関係異業種との連携も、利害が一致する今なら、現実的な話ができるのかもしれないと考えております。勿論、現在までも業界全体でいろいろな施策を実施されてこられた結果が現状でありますので、よほど慎重かつ実現性のある計画としなければなりません。今後も関係異業種や団体の方と機会あるごとに意見交換を重ね、計画として取り纏められることが出来ればと考えております。

お知らせ

1. No.613 建造見学会開催について

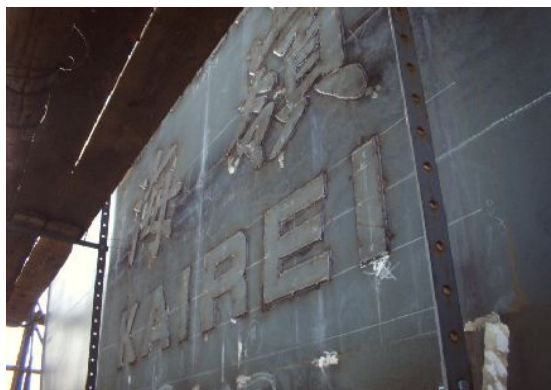
大変長らくお待たせ致しましたが、3月24日から始まる週において、No.613 建造見学会を開催させて頂きたいと存じます。詳細は別途ご案内申し上げます。

<編集後記>

工務担当の末田常務を中心に私も建造監督として検査のスケジュールに合わせ、造船所に1週間のうち半分は常駐しておりますが、ドックハウスでは半自炊状態です。近くに定食屋がありますが、時間が合わなかったりで利用する機会も少ないので……………。

新造船の監督は勿論全員初めての経験で、某修繕専門の造船所のような対応が普通と思っていた私達にはいい教訓かもしれません。あくまで私達の目的は、“良い船”を建造して頂くことですから。

初日は“すき焼き”で、次の日は残りで“すき焼きうどん”でした。“すき焼き”に入れる野菜で末田常務と議論しておりました。谷村でした。次回は白石専務です。



いよいよです。

